

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会エンブレムについて

1 選考経過

- 平成27年9月29日 組織委員会において、エンブレム委員会が発足（宮田亮平氏（文化庁長官）を委員長に、デザイン関係者だけでなく、芸術、経済、法律、スポーツ、ITなど幅広い分野の委員21名で構成）
- 11月24日～12月7日 エンブレム公募 ＊応募総数14,599作品
- 平成28年4月8日 審査、国内外の商標調査を経て、エンブレム委員会で最終候補作品4点を決定・公表
- 4月8日～17日 意見募集 ＊のべ4万人以上から、約11万件の意見あり
- 4月25日 エンブレム委員会で採用作品を決定し、組織委員会の理事会の承認を経て公表

2 大会エンブレム



くみいちまつもん
「組市松紋」

制作者：野老 朝雄（ところ あさお）

<コンセプト>

歴史的に世界中で愛され、日本では江戸時代に「市松模様」として広まったチェッカーデザインを、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描いた。形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、国や文化・思想などの違いを示す。違いはあっても、超えてつながり合うデザインに、「多様性と調和」のメッセージを込め、オリンピック・パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表した。

3 大会エンブレムの活用

（1） 基本的考え方

東京2020大会の成功に向け、都民一人ひとりが様々な形で大会に関わり、参加することのできた感動と喜びを心のレガシーとして残るものとしていくために、オリンピック・パラリンピック両方のエンブレムを重要なアイテムとして、オール東京、オールジャパンで活用していく。

（2） 具体的取組

<開催都市としての雰囲気醸成>

- 都庁舎、議会棟への大会エンブレムの掲示
 - 都庁舎、議会棟や区市町村等の庁舎、都立スポーツ施設や文化施設等に、ポスター、のぼり旗等を掲示
 - 都立施設などにおけるデジタルサイネージへの掲出
 - 空港到着ロビーへの掲出
- 上記の項目をはじめとして、シティドレッシングを順次拡大し、東京の街全体で、オリンピック・パラリンピックの祝祭の雰囲気を計画的に醸成

<参加気運の醸成>

- 都や区市町村が実施する関連イベントなどにおいて、広報PR用バッジやポスター、のぼり旗などを幅広く活用することにより、イベントに参加した人々の心に生まれる、共に大会を成功させたいという気運を醸成していく。
- 被災地をはじめとする他道府県においても、都が作成する広報PRツールを活用していただき、日本全体での気運醸成を図っていく。